与論小唄／十九の春・元歌／

本調子

合 四上中 中 上中工五工 工 中中中上四上四

工五四 合 四 四 合 四上中 中上四 上中工
このは ― みたい な ― わがよ

工五工 合 工五合 四上中 中 上中工五工 工五
ろ ― ん なんの ― たのし ― み

中中中上四上四 工五四 工 五 五 五 五六五
ないと ― こ ― ろ すきな ― あなか

工 工 中上四 乙乙合 工五四 合 四上中 中
が ― おれば ― こそ ちいさな ―

上中工五工 工 中中中上四上四 工五四
よろん ― も ― すきと ― ― なる

一、木の葉みたいな　わがよろん
何の楽しみ　無いところ
好きなあなたが　おればこそ
小さなよ　ろんも好きとなる

二、近ごろだれかさんの　顔いろは
三月桜の　花のいろ
あれに迷うな　手を出すな
あれは誰かさんの　かこい花

三、あなたあなたと　焦がれても
あなたにゃ立派な　方がある
いくら私が　焦がれても
百合ヶ浜辺の　片思い

四、私が貴方を　想う数
山の木の数　星の数
三千世界の　人の数
千里浜辺の　砂の数

五、一年待て待て　二年待て
三年待つのは　よいけれど
庭の草木を　見てごらん
時節変われば　色変わる

六、磯の浜辺の　波静か
二人手に手を　取りかわす
死んだらあなたの　妻ですと
女心の　悲しさよ